

平成二十五年九月

今回の印度ラダック旅行は西日本のヨーガグループの企畫せしものにて集合場所は關西空港なり。京大阪に前泊なすも又一興とて覺悟し居る處、關東の参加者半數を超えたれば、成田空港出發便も追加と相爲りぬ。大阪及び廣島在住ヨーガ指導者音頭取りを務むるものにて、大阪のKさんは關西空港より出發、廣島のMさんは態々東京に來たりて成田發組に同行す。兩人とも女性なれば参加者中三分の二は女性なり。倍音聲明は皆で發聲する瞑想故、女性の聲多きこと如何なるや、倍音發生良好なるやと案ずるも、其の實特に問題とはならず。男性の聲の女性より強き故か。

廣島のMさん、成田にて足挫きけり。デリー空港到着時には緩慢なれども獨力にて歩行可能なり。されどラダックにてはホテルのボーイの肩をば借りての歩行と相成れり。翌朝早く我自室窓より中庭をば眺むるに、N師何やら作業中なり。何處にてかY字型の頑丈なる枝を手、木の叉にはタオルを巻附け固定、脇の當る部分の緩衝材とす。下部は金屬にて別の木を繋ぎ、調節により長さの變更可能なり。旅先にての即席作品なれど見事なる松葉杖出來上がりたり。論語の一節を連想す。

「吾少かり也賤。故に鄙事わかに多能なり。」

賤や否やは知らず、N師の多能多才勤勉なるに改めて驚愕敬服す。

朝食時、Mさん自力歩行にて現る。

「松葉杖不要なりや」

と尋ぬるに、

「然り、N先生の工作知りて、忽ち痛み收まれり」

と。所謂ショック療法なりや。

余、嘗て或る病の爲通院、手術の日取決定するや、何故か症状消失せる經驗あり。ショック療法なり。

Mさん松葉杖をば持ち歸り旅行の記念品と爲せりとなむ。